

あきほ

第13号

2012年 4月



車いす贈呈式(亀城小、港南小、松原小児童会の皆さん)

目次

第2期中期計画	2	酒田医療センター情報	6
がん診療最前線	4	院内トピックス	7
医療相談あれやこれや②	5	病院からのお知らせ	8

第2期中期計画がスタート

平成20年度に始まった第1期中期計画では、県立日本海病院と市立酒田病院の統合再編、地方独立行政法人による運営形態の変更という全国に先駆けた取り組みが行われました。また、併せて2病院の診療機能の再編を行い日本海総合病院の増築・改修、庄内地域初めての救命救急センターの開設、高度医療機器の導入などを行いました。酒田医療センターでは、医療療養病棟への変更と回復期リハビリテーション病床に対応した増築などを行いました。病院経営の面では、2つの病院が統合し運営形態が変わったことにより、スピーディーでかつ弾力的な経営を行い、収支の改善が図られました。第2期目の中期計画は、平成24年4月から平成27年3月までとなっています。

新たな課題も踏まえ、さらなる地域医療の向上につなげる内容としており、山形県議会と酒田市議会の議決を経て承認されています。第2期中期計画では主に次のような取り組みを計画しています。

この中期計画は、



住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

高度専門医療・回復期医療の充実

酒田医療センターの回復期医療の充実

- ◆回復期リハビリテーション
 - ・回復期・通所リハビリテーションの充実
- ◆在宅医療支援
 - ・酒田地区医師会十全堂訪問看護ステーションスワンの併設による地域連携の強化



平成25年3月完成予想図

日本海総合病院の高度医療の充実

- ◆救急医療
 - ・救命救急センターの専門医の育成
 - ・酒田救急ワークステーションとの連携強化、ドクターカーの検討
 - ・山形県ドクターヘリの運航に伴う受け入れ態勢の整備
- ◆がん医療
 - ・PET-CTの運用開始(平成24年6月1日予定)によるがん治療の強化
 - ・緩和ケア医療の充実
- ◆糖尿病
 - ・チーム医療による食事療法、運動療法、薬物療法等の集中的治療の充実
- ◆高度先端医療機器の計画的導入
- ◆政策医療の実施
 - ・第二種感染症指定医療機関の指定
 - ・認知症疾患医療センターの運営
- ◆災害時・健康危機における医療協力
 - ・災害拠点病院・DMAT(災害派遣チーム)
 - ・災害医療訓練と地域の医療従事者を対象とした災害医療研修の実施



《両病院共通》

- ◆脳卒中・急性心筋梗塞
 - ・急性期リハビリテーションの充実と回復期リハビリテーションとの連携強化
- ◆在宅医療支援
 - ・医療・介護・福祉機関と連携強化のため窓口・相談機能を充実

医療サービスの効果的な提供

- ◆ **地域連携の推進**
 - ・医療から介護・福祉への切れ目のない連携の強化
 - ◆ **ちようかいネット(医療情報連携システム)の活用**
 - ・病院、診療所、歯科診療所、薬局、介護・福祉施設との情報共有
 - ・広域的医療情報連携の推進
 - ◆ **地域連携クリティカルパス^{※1}の活用**
 - ・対象疾病の拡大とクリティカルパスの推進
- ※1 診療にあたる医療機関の役割分担や診療内容などを示した計画書



医療スタッフの確保及び資質向上

- ・臨床研修医及びレジデント(専門分野の研修医)の教育研修体制の充実
- ・認定看護師・専門看護師の育成
- ・医療技術職員の研修充実による専門技能の向上
- ・事務系職員の専門性の強化(診療情報管理士の配置など)



患者・住民サービスの一層の向上

- ・患者ニーズを把握しながらの患者の利便性の向上と業務改善の取り組み
- ・患者用駐車場の拡張
- ・待合室、病室、トイレなどの療養環境の整備
- ・患者や住民目線に立ったサービスの向上



教育研修事業の推進

- ◆ **庄内地域における医療水準の向上**
 - ・山形大学、東北大学、県立保健医療大学、県立病院等の医師との人材交流などによる医療水準の向上
 - ・山形大学医学部先端分子疫学研究所との協力の推進
 - ・医師確保と定着化を促進するための方策の検討
 - ・酒田市立看護専門学校への協力と看護教員の計画的な養成
- ◆ **住民の意識の啓発**
 - ・広報誌「あきほ」による地域住民への情報発信、地域住民向けの医療セミナーの開催



法令等の遵守と情報公開の推進

- ・医療従事者としての行動規範、倫理等についての研修の実施
- ・医療情報のセキュリティ対策の向上
- ・適正な情報の開示

医療安全対策の充実・強化

- ・安全・安心な医療を提供するための安全管理体制の推進・強化
- ・アクシデント発生時の迅速な報告と原因分析等による再発防止体制の強化

引き続き第2期目を担当するにあたり



理事長
栗谷 義樹

平成20年の4月に全国に先駆けて県立病院と市立病院を統合再編し、地方独立行政法人による第1期目の運営については、評価委員会や総務省でも高い評価を受けるなど、順調に経過をすることができました。これも病院職員の頑張りや地域並びに関係の皆様のご支援のお陰だと考えております。

このたび、山形県知事と酒田市長から引き続き第2期目の理事長として任命を受けました。今後も地域医療を守るため、誠心誠意努めてまいります。

この第2期目は、法人にとりましても地域医療にとりましても大変、厳しい4年間になるのではないかと考えております。私たちの地域医療を取り巻く現状は、この酒田地域・北庄内地域だけをターゲットにしていればよいという時代は終焉し、庄内地域、また、最上地域や秋田の県南地域を見据えた医療構築を考えていかなければならない時代に突入しつつあります。限られた医療資源をより有効に活用して、将来を見据えた持続的・安定的な病院運営を続けてまいりたいと考えておりますので、引き続き、地域の皆様、関係の皆様にはご支援、ご協力をお願いいたします。

がん診療最前線

悪性腫瘍に対するオーダーメイド医療

去る3月17日、酒田市民健康センターにおいて、「庄内から発信するオーダーメイド医療」と題して市民公開シンポジウムが開催されました。「CEOプログラム」という国際競争力のある大学作りを推進するために文部科学省が設置した事業があり、山形大学では生活習慣病への罹りやすさと遺伝子の関係を解き明かしていこうという分子疫学がこのプログラムに認定されています。医療分野では全国で14件のみの採用です。このプログラムにご協力いただける県民の方には、検診の場でご説明とお願いをし、健康と生活習慣(お酒、タバコ、食事や運動など)の調査を



講演中の陳医師

行うとともに個人の遺伝子情報を集積・解析するために血液をいただいています。庄内でも平成23年から調査が開始され、日本海総合病院にはこの分子疫学研究を推進するための研究所分室が設置されています。冒頭の市民公開シンポジウムでは、分子疫学研究が進むとどのようにオーダーメイド医療に活かされるかについて講演がありました。本号のがん診療最前線では、がん領域のオーダーメイド医療について当院外科の陳医師から発表された内容を要約しました。



オーダーメイド医療を患者さんに説明している様子

がんに対するオーダーメイド医療で必要な採寸とは

洋服を買う時に、いくつかの決められたサイズの既製服を買うのではなくオーダーメイドの洋服を作ることを考えてください。一人ひとりにぴったりの洋服を作るためには体の寸法を測ります。医療も同じで、様々な病気ごとに決められた治療法があり、その中からその人にあつた治療を選択しますが、効果は人によって違います。

がん医療の現場では、自分にぴったりあつていない場合、それが判ったときにはすでに無用な副作用に苦しめられていたり、病気が進んでしまつていたりします。では、がん医療でオーダーメイド治療をするときには何を測ればいいのかでしょうか。一つは、「個人の体質」と言われる一人ひとりの遺伝子のばらつき(遺伝子多型)を測ることです。2003年にヒトのDNAの全塩基配列が明らかとなり、ヒトゲノム解読完了となりました。しかし、薬物を活性化させる酵素や分解する酵素を作るための遺伝子は各個人で少しずつばらつきがあり、「個人の個性」となっています。また、がんというのはタバコやお酒といった環境因子に

より健康な細胞の遺伝子に傷がついて、無分別に増殖し続けるようになった状態ですが、このがん遺伝子の変異も一人ひとり違いがあり、「がんの個性」となっています。がんのオーダーメイド医療では「がんの個性」を測る事も必要です。



回診の様子

現在、日常診療で行われているがんに対するオーダーメイド医療の例

進行がんには抗がん剤治療が行われる事が多いですが、抗がん剤を分解する酵素を作るための遺伝子にも多型があります。イリノテカンやゲシタビリン酸は胃や大腸がんに使われる抗がん剤ですが、これを分解するUGT1A1という酵素の遺伝子多

型により1〜2割の患者さんでは分解酵素がうまく働かず白血球減少や下痢といった副作用が重篤化することが判っています。このような遺伝子をもつ患者さんではイリノテカンが使わないか減量することが必要です。

また、最近の遺伝子解析からがん細胞が増えたり転移したりする筋道が判ってきました。進行した大腸がんで使われるセツキシマブという分子標的薬はがん細胞の表面にあるEGFRという受容体に結合して増殖信号ががん細胞のDNAに届くのをブロックしますが、がん細胞内のKRAS遺伝子が変わっている患者さん(およそ40%)ではEGFRの下流から増殖信号が出続けるので、この薬の効果が

期待できません。時間とお金を無駄にせず、無用の副作用を起こさないためには、がん細胞のKRAS遺伝子が変わっていないかどうかを調べてから薬を投与することが必要となります。

今後期待される遺伝子を用いたがんに対するオーダーメイド医療

表に、今後期待されるオーダーメイド医療の応用を上げてみました。分子疫学調査により、がんを含めた生活習慣病と遺伝子多型の関係が詳しく明らかとなるには、数10年かかると思われますが、皆さんの子どもやお孫さんが健康で長生きできるように是非、この調査にご協力ください。

今後、期待される遺伝子を用いたがんに対するオーダーメイド医療

●予防に役立てる	がんになりやすい人を見つけ、がんになりにくい生活習慣を知らせる
●診断に利用する	病気の確定診断として実施したり、病気の性格を調べるために利用
●治療の効果を判定する	腫瘍細胞がどれだけ残っているかを調べて、治療継続の可否を決める
●治療の効果を予測する	どの抗癌剤を使用すると効果があるかを検討する時の参考にする
●副作用が強くなる人を予測する	抗癌剤を代謝する力の低い人は、薬が体に蓄積し副作用が強くなります。そのようなことがわかれば、その抗癌剤の量を減らしたり、別の抗癌剤を使うことができる

医療相談あれこれ②

医療連携室では、患者さんの負担をより少なくするために、様々な医療費の制度をご案内しています。今回は、高額療養費貸付制度についてご紹介させていただきますが、今回は、4月より始まり

ました「外来での高額療養費の現物支給化」についてご紹介いたします。高額療養費の現物支給化と言っても、なかなかピンと来ない方もいらっしゃると思いますが、今までは入院でしか利用出来なかった限度額適用認定証が外来でも使用できるようになります。

そもそも限度額適用認定証とは、あらかじめ交付を受け医療機関の窓口で提示することで、医療機関ごとのひと月の支払額が自己負担限度額までに抑えられるものです。4月からは外来でもこの認定証を提示することによって、窓口負担をおさえることが出来るようになります。

今まで貸付制度を利用してお支払いをしていた方も、この制度を利用することによって、面倒な申請手続きをせずに医療費をお支払いいただけれます。外来で高額な治療をされている

方にはオススメの制度です。認定証が用意できましたら、会計の際に提示していただくことにより適用されます。

なお、この制度は認定証を申請された月からの適用となり、遡っての適用は出来ませんのでご注意ください。過ぎてしまった月で高額療養費制度に該当している月があった場合は、通常の還付制度をご利用ください。

24年3月31日以前に交付された認定証をお持ちの方は、現在お持ちの認定証の有効期限までは使用することが可能です。期限が切れている場合は新しい認定証を申請してください。申請手続きに関しては、国民健康保険に加入されている方は各市町村の国保係へ、社会保険・組合保険に加入されている方は各職場にて手続きをお願いいたします。

もちろん、限度額認定証を使用しなくても、今まで通りの制度を使用してお支払いいただくことも可能です。詳しく聞いてみたいという方は、1階エントランスホールにあります医療連携室へお尋ねください。

酒田医療センターに 回復期リハビリテーション病棟が設置されました

酒田医療センターは医療療養病棟になっていますが、これまでの医療療養病棟の一部を変更し回復期リハビリテーション病棟を設置しました。

医療療養病棟は主に亜急性期～慢性期の治療を行う病棟です。医療療養病棟には病状が安定し医療処置は少なくなっているが自宅へ退院できる状態まで回復していない方や施設での対応が困難で入所できない方に入院していただいています。病状によっては急性期病棟よりも適切な医療を提供できていると考えています。

回復期リハビリテーション病棟は積極的なリハビリテーションを行う病棟です。脳血管疾患（脳梗塞、脳出血など）や整形外科的な疾患（骨折など）でリハビリテーションが必要な患者さんに対して、積極的に効果的なリハビリテーションを行い早期に自宅復帰をはかる病棟です。北庄内には回復期リハビリテーション病棟が少なかったため、新たにリハビリテーション病棟を設置することは地域の医療に貢献することができると考えています。

酒田医療センターでは入院前に患者さんやご家族の方との面談日を設定しています。面談時に当院で可能な医療内容などについてご説明をいたしますので内容をご承知いただいた上で入院をお願いいたします。また、入院中にも面談日をもうけて治療経過のご説明や今後の治療方針などについて説明をいたしますので、ご家族の方にも面談日に来院していただくなどのご協力をお願いします。

なお、地域の医療資源を有効に活用する観点から、医療療養病棟であっても入院期間を無制限に長くすることはできないことについてご理解をお願いします。

【お問い合わせ】

酒田医療センター地域医療室
☎(代)23-11111



病室での日常生活動作訓練

全量摂取を目標に

（医療療養病棟・回復期リハビリ病棟の食事）

酒田医療センターでは、一般病棟から医療療養病棟・回復期リハビリ病棟へ医療区分が変更されて1年半が経過しました。栄養管理室では、患者さん一人ひとりの病状に合わせた食事を提供するとともに、「個別に対応した食事」を全て召し上がっていただくことを目標に試行錯誤を繰り返してまいりました。「個別に対応した食事」と聞くとエネルギーや脂質、たんぱく質の調整や禁止食品に対する代替えが思い浮かびますが、医療療養病棟ではさらに幅広い対応が求められます。まず、^{※2}咀嚼嚥下機能が低下した患者さんには、状態に応じて口腔内に^{※3}食物残渣が残りやすく飲みやすいなめらか食の提供を検討します。なめらか食は普通食と同じように調理した食材をミキサーでピューレー状にして、再度ムース状に固めた柔らかい食事です。また、食欲が低下して食事を見ただけで満腹になってしまうという患者さんには、食事を減らして視覚的な負担を軽減したハーフ食の提供を検討します。この場合、食事の不足した栄養は栄養補助食品（ゼリータイプやド

リンクタイプ）を利用して補います。さらに、回復期リハビリ病棟では全身状態に合わせた食べやすい形状に加工された食器を選定する必要があります。一般的には自助食器と呼ばれますが、料理の種類や配置する方向で使いやすさに差がでるため、配膳の際には細心の注意を必要とします。その他にもいろいろな対応があります。が、食事は年齢、性別、病状、活動量と複合的な要素が関係しています。



- ・自助食器（コップ）：取っ手の部分が長く設計され、転がりにくい。使用時には手を巻き込んで使うことも可能。
- ・自助食器：くぼみが作られ、片手でもスプーンで食品をすくいやすい。裏面にゴム材を使用して、滑りにくくしている。

※2 咀嚼嚥下（そしゃくえんげ）
口の中に入れた食べ物を細かく噛み砕き、唾液と混ぜ、飲み込みやすいかたちに変えて最後に飲み込むこと。
※3 食物残渣（しょくぶつざんさ）
食物残渣とは、口腔（口の中）内に残された食べ物などのことです。

東日本大震災から一年・・・

防火避難訓練を実施しました

日本海総合病院では、万一火災などが発生したときに患者さんを安全に避難誘導できるように1月26日に訓練を実施しました。職員58名が参加し、3階南病棟からの出火の想定で、模擬患者を避難場所の1階会議室まで階段を使って搬送するなどの訓練を行いました。搬送手段として新たにエアーストレッチャー(写真参照)を試用しました。酒田消防本部の講評では、火事ぶれの際は発生を伝えるだけではなく、発生場所や消火要請なども伝達するように、自力避難者には階段位置が分かりにくいので階段入口に人員配置して誘導するようなどの指摘をいただきました。患者さんの安全のため、今後このような訓練を定期的に、同時に職員への防火に対する意識も高めたいと考えています。



エアーストレッチャー

災害机上訓練を実施して

内科 小山 雄太

2月25日、東日本大震災を受けて改定された災害対策マニュアルをもとに災害机上訓練が行われた。今回の訓練は、発災後どのような手順で当院の災害対策本部やトリアーリエリアが立ち上がるのか、エリアの資器材配置や患者動線などのようにするか確認することが主眼であった。

まずマニュアルに沿って机上で本部設営とエリア立ち上げの訓練を行い、次いで実際の設置場所ですシートや椅子、折たたみベッドを使ってエリアを立ち上げた。マニュアルがあっても読むだけでは実際のイメージは湧きにくい、実際に立ち上げることで立案した配置の利点・欠点が明らかとなり、また参加したスタッフでイメージを共有することができたのは大変有意義であったと思う。

また、本部立ち上げと運営においては事務方のマンパワーが極めて重要であることも浮き彫りになった。今後は災害時対応における一般概念を病院スタッフに知ってもらう場を作りながら訓練を重ねていくことが求められる。

車いすをいただきました

2月23日に亀城小、港南小、松原小の3校児童会から車いす2台を寄贈いただきました。これは、同じ中学校に通うこととなる3校の児童会が連携してリサイクル活動を行い購入してくださったものであり、10数年前から毎年寄贈していただいています。

贈呈式では、代表の松原小学校企画委員会委員長池田皓太郎くんから「3校で協力してアルミ缶、牛乳パックのリサイクル活動を行いました。病院で役立ててもらいたいと思います」とのあいさつがありました。

やさしい思いやりの心の詰まった車いすを大切に使用させていただきます。3校の小学生の皆様ありがとうございました。



車いすの贈呈を受ける看護部長

新人職員を採用

山形県・酒田市病院機構では、平成24年4月1日付けで64名の新人職員を採用しました。内訳は看護職39名、医療技術系職員17名、事務系職員8名です。

4月2日の入職式では緊張した面持ちの新人たちですが、今後、各種研修や現場経験を積んで逞しく成長することを期待しています。皆さん、どうぞよろしくお願いたします。



飛島診療所の診療支援開始

平成23年度末で酒田市飛島診療所の杉山誠医師が退任されたことに伴い、4月から酒田市の要請に基づき飛島診療所の診療支援を行うことになりました。新たな常勤医が見つかるまでの間、4月から10月まで金曜日の午後及び土曜日の午前の診療を行います。日本海総合病院の16名の医師が交代で飛島地域の医療を支援することになります。



病院からのお知らせ



地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構 職員採用試験について(平成24年7月1日採用)

1 採用職種、人数及び受験資格

職種	採用予定人員	受験資格	
		年齢	免許・資格など
看護師	10名程度	昭和38年4月2日以降に生まれた方	看護師(婦)免許を有する者
薬剤師	若干名	昭和52年4月2日以降に生まれた方	薬剤師免許を有する者
診療放射線技師	若干名	昭和52年4月2日以降に生まれた方	診療放射線技師免許を有する者

2 採用試験関係日程

(1)申込受付期間

4月16日(月)～5月8日(火)
8:30～17:15(土・日・祝日を除く)

(2)試験日及び会場

5月19日(土) 日本海総合病院

(3)試験科目

職種	科目	時間
看護師	教養試験	9:30～10:10
	面接試験	10:30～
薬剤師 診療放射線技師	職場適応性検査	9:30～10:00
	教養試験	10:15～12:15
	面接試験	13:00～

(4)募集案内

日本海総合病院、酒田医療センター、酒田市役所などに置いております。

・病院機構HPから申込み用紙がダウンロード出来ます。

(5)合格発表

5月末
院内掲示、
病院機構HP掲載

一緒に働いて
みませんか?



第1回庄内地域医療情報ネットワーク研究大会 第3回全国ID-Link研究大会 合同研究大会

日時：平成24年7月7日(土)

会場：ホテルリッチ&ガーデン酒田
日本海総合病院講堂(システム現地説明会)

内容

10:00～11:30 システム現地説明会
14:30～18:00 庄内地域医療連携ネットワーク研究大会

県内の事例発表

・酒田地区・鶴岡地区・置賜地区(OKI-net) 他
全国の事例紹介
・筑波メディカルセンター(茨城県)・白石共立病院(佐賀県)
他4～6事例を予定。

※詳細は「ちようかいネットHP」

<http://www.nihonkai-hos.jp/choukai-net/>
をご覧ください。若しくは事務局までお問い合わせください。
酒田地区医療情報ネットワーク協議会
(日本海総合病院経営企画室内)
TEL0234-26-2001 FAX0234-26-5114
担当 経営企画室 斎藤、新橋

げんきGO (病院間シャトル運行)

げんき号の運行時間が変更になります。

日本海総合病院と酒田医療センター間の患者移動用ワゴン車「げんき号」の運行時間が4月23日(月)から次のとおり変更になります。時間が大幅に変更しますのでお間違えのないようにお願いいたします。

【運行時刻表】

開院日運行

日本海総合病院 酒田医療センター (出発)	日本海総合病院 (到着)	日本海総合病院 (出発)	日本海総合病院 酒田医療センター (到着)
8:15	8:25	8:30	8:40
8:45	8:55	9:00	9:10
9:15	9:25	10:00	10:10
10:45	10:55	11:30	11:40
11:45	11:55	12:00	12:10
13:45	13:55	14:00	14:10
15:45	15:55	16:30	16:40

編集後記

今年もフレッシュな新人が沢山入職しました。私が若かりし頃はゴールデンウィークが終わった頃から5月病が流行していたような記憶があります。

今年の新人たちをみていると5月病には全く無縁のような物怖じしない逞しさを感じます。このまま順調に育てほしいと願っています。次号からは新しいスタッフが担当します。乞うご期待。

広報誌「あきほ」 第13号 平成24年4月(季刊) 発行部数：2,500部

編集発行 ● 地方独立行政法人 山形県・酒田市病院機構 広報企画委員会(事務局：法人管理部)
〒998-8501 山形県酒田市あきほ町30番地 TEL:0234-26-2001(代表) FAX:0234-26-5114
URL: <http://www.nihonkai-hos.jp/> E-mail: kanribu@nihonkai-hos.jp

印刷 ● 株式会社小松写真印刷